

離床センサー Vol.106 2018.5

現場レポート!



離床センサーをお使いの現場からレポートいたします!

札幌徳洲会病院様の導入例とその効果について

【使用センサー】	超音波・赤外線コール × 6台	ベッドコール・コードレス × 2台
	徘徊ナビ・ハイパー × 4台	徘徊ナビモニター × 3台

Q. 離床センサーの選択基準やルールはありますか？

明確な選択基準はありませんが、病棟看護師が患者さまにアセスメントを実施して使用や機種を決めています。「徘徊ナビ・ハイパー」に関しては、現在ひとつの病棟で集中して使用しているので、医療安全管理室を通して使用することになっています。 ※他のセンサー同様、病棟管理に移管を検討中



Q. 離床センサー導入後の効果を教えてください。

特に効果が出ているのは「徘徊ナビ」です。

離院・離棟の課題は以前から抱えていましたが、「徘徊ナビ」で未然に防止できる事を知り導入しました。

患者さまの動きを検知するアンテナ（徘徊ナビモニター）を好きな場所に設置できることが良いと思います！当院では「徘徊ナビモニター」を下記の場所に設置し、患者さまの動きをフォローしています。

【徘徊ナビ・ハイパー】

対象者の手首又は足首に「タグ」を取り付けます。対象者を検知したい場所に「徘徊ナビモニター」を設置し、対象者（タグ）が「近付く」と、ナースステーションのハイパー受信器で報知します。



タグ 徘徊ナビモニター ハイパー受信器 10

「徘徊ナビモニター」設置場所

- ①ナースステーション（病棟出入口）に設置：
離棟が心配な患者さま⇒病棟を離れようとする時と報知
 - ②病院の出入口に設置：
離院が心配な患者さま⇒病院外に出ようとする時と報知
- ※①の病棟内で対応できているので②の出入口では今の所1度しか報知していません！

特定の患者さまが、行動に移る前のタイミングで自然に声かけや介助ができるようになり、離棟・離院防止にとっても効果が出ています！

